

陸連時報 三

2013
平成25年

9

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

加盟団体連絡協議会報告	214
ホクレン・ディスタンスチャレンジ2013大会報告(強化副委員長 木内敏夫)	215
第20回アジア陸上競技選手権大会報告(強化委員長 原田康弘)	216
第8回世界ユース陸上競技選手権大会報告(強化副委員長・強化育成部長 山崎一彦)	218
長野マラソン「レース直前対策講座とランニング相談会」報告 (普及育成委員会ランニング普及部長 前河洋一)	220
2013年度U-16陸上競技指導者中央研修会要項(普及育成委員会)	221
科学委員会活動報告(日本グランプリシリーズ、日本選手権など)(科学委員長 杉田正明)	222
2013年度医事委員会総会と全国医務部長会議(理事・医事委員長 山澤文裕)	224
2013数字で見る陸上競技Vol.1 都道府県公認競技会数	225
2013数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数	226
大会観戦ガイド	227
陸協NEWS	228
事務局からのお知らせ	230

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

加盟団体連絡協議会報告

日 時：2013年6月18日（火）13時00分～14時45分

場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター

「研修室3・4」

【次第】

1. 会長挨拶
2. 専門委員長紹介
3. 強化委員会活動方針及び報告
4. 普及育成委員会活動方針及び報告
5. その他

本年度1回目の加盟団体連絡協議会を開催し、加盟団体及び協力団体から各1名（1県は2名出席）、合計53名が出席した。

1. 会長挨拶

6月5日に新たに会長に就任した横川会長より、挨拶があった。

2. 専門委員長紹介

同じく6月5日に就任となった各専門委員長より自己紹介があった。

3. 強化委員会活動方針及び報告

原田強化委員長より昨年11月よりスタートした強化委員会の新体制について、「マラソン日本の復活」「国際大会で戦える選手を育成するための重点強化種目の選定、世代間及び種目間の連携強化」との方針と、これに基づく組織変更や制度の大幅な改定等を行ってきた旨報告した。加えて、世界選手権、アジア選手権、東アジア競技大会、世界ユース選手権の各日本代表選手団について報告した。

また、酒井強化副委員長からはリオデジャネイロオリンピックに向けたマラソンの選考方針について説明があった。

4. 普及育成委員会活動方針及び報告

繁田普及育成委員長より、今後の普及活動、指導者養成活動に関して説明があった。普及政策部の調査研究より「取りこぼしをしない、競技間・種目間のトランスファーの促進」が大切であることを説明し、その上でこれまでの施策は継続しつつ、中学生世代のサポートの充実、そのための指導者養成の充実を行っていききたい、また裾野拡大のための新規事業を検討したいとの方針説明があった。

5. その他

①理事会報告

尾縣専務理事より、3月から6月にかけて開催した理事会での決定事項の

うち、女性委員会の解消、定款の変更、暴力・セクハラ相談窓口の設置並びにコンプライアンス規程及びコンプライアンス委員会設置について報告した。

②桐生選手の世界ジュニア記録に関する本連盟の対応及び国際陸上競技連盟への申請、回答

吉儀競技運営委員長より、桐生選手の世界ジュニア記録に対する本連盟の対応、国際陸上競技連盟からの回答について報告した。

③今年度のインターハイ及び国民体育大会の準備状況報告

今年度のインターハイ及び国民体育大会の準備状況につき、それぞれの主管陸協である大分陸協、東京陸協より報告があった。

河野洋平名誉会長・横川浩会長 就任披露懇親会

日 時：2013年6月18日（火）15時00分～16時30分

場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター

「大研修室」

出席者：顧問、評議員、役員、

加盟団体及び協力団体関係者等86名

【次第】

○横川浩会長挨拶

○河野洋平名誉会長挨拶

○河野名誉会長へ花束贈呈（永井立子理事）

○新役員（理事、監事）紹介（尾縣専務理事）

○乾杯挨拶（帖佐寛章顧問）

（歓談）

○中締め挨拶（友永義治副会長）

加盟団体連絡協議会に引き続き、大研修室において「河野洋平名誉会長・横川浩会長 就任披露懇親会」を開催した。

懇親会では河野名誉会長及び横川会長からの挨拶の後、帖佐顧問より乾杯の発声、永井理事から河野名誉会長への花束贈呈があった。会の途中、新体制となった役員を紹介した。



加盟団体連絡協議会



就任披露懇親会で挨拶した河野名誉会長

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2013大会報告

強化副委員長 木内敏夫

ホクレン・ディスタンスチャレンジは今年で11回目を迎えた。本年も下記の会場での開催となった。

関係者のご協力により無事終了した。

大会主旨、大会の概要、結果及び今後の課題について以下のとおり報告する。

1. 主旨

近年、個人や各団体が欧米の大会を転戦するようになり、海外の大会で多くの日本人選手の参加が散見されるようになった。しかし、欧米の大会では大会持ち時間が無いとウェイトイングはまだしも、全く出場できない状態も多く見受けられた。

そこで海外主要大会に出場できる選手は、欧米転戦の直前調整に利用し、そのレベルに至っていない選手にとっては、ヨーロッパと似た気候の北海道で、ペースメーカーを準備することにより、記録挑戦を目指した。

2. 会場・期日・種目 (表1)

3. 参加状況 (大会出場者数) 及び気象状況 (表2)

参加者数は昨年と同程度で、一昨年より大幅増の1000人を上回る参加者となった。

表1 会場・期日・種目

会場	場所	期日	種目	
			男子	女子
第1戦・土別大会	土別市 陸上競技場	6月26日 (水)	1500m	1500m
			3000m	3000m
			5000m	5000m
第2戦・深川大会	深川市 陸上競技場	6月29日 (土)	1500m	3000m
			5000m	10000m
			10000m	
第3戦・網走大会	網走市営 陸上競技場	7月3日 (水)	800m	800m
			1500m	1500m
			5000m	3000m
			10000m	5000m
第4戦・北見大会	北見市 東陵公園 陸上競技場	7月6日 (土)	800m	800m
			1500m	1500m
			5000m	3000m
			10000m	10000m

表2 参加状況 (大会出場者数) 及び気象状況

	出場者数 (人)			気象状況			
	男子	女子	合計	天候	気温 (°C)	湿度 (%)	風速 (m/s)
土別	74	89	163	曇	14.5→12.0	78→82	1.9→1.5
深川	220	81	301	晴	22.5→18.0	58→71	0.9→0.7
網走	147	135	282	曇	22.1→20.1	69→73	3.6→4.9
北見	138	131	269	曇	24.4→22.0	74→87	1.3→0
合計	579	436	1,015	気象状況は競技開始時→競技終了時まで表現			

表3 自己ベスト、シーズンベスト達成数

	達成数		達成率	
	男子	女子	男子	女子
土別	11	28	14.9%	31.5%
深川	53	32	24.1%	39.5%
網走	6	24	4.1%	17.8%
北見	45	46	32.6%	35.1%
合計	115	130	19.9%	29.8%

4. 自己ベスト、シーズンベスト達成数 (表3)

大会の条件によって、ばらつきがあるものの、自己ベスト、シーズンベスト達成率は男子で約20%、女子で約30%であった。

5. 大会結果特記事項

例年同様に、温度や風を考慮して殆どのレースをナイターで行った。

今大会も多くの実業団、学生選手が、それぞれが設定した目標達成を目指して参加した。

また8月のモスクワ世界選手権の代表選手も数名参加し、調整具合を確かめた。

本年度も男女同時レースを実施しなかったが、女子で、再度ペースメーカーを採用し、好記録達成を目指した。

・第1戦土別大会……萩原歩美選手 (ユニクロ) が女子5000mに出場し、15分49秒19の自己ベストを達成し、その後アジア選手権10000mで銅メダルを獲得した。

・第2戦深川大会……世界選手権代表の福士加代子選手 (ワコール) が女子10000mに、大迫傑選手 (早稲田大学) が1500m、5000mに、宇賀地強選手 (コニカミノルタ) が5000mに出場した。宇賀地選手は13分30秒77の好記録を出した。

・第3戦網走大会……当日は強風が吹き、厳しい条件下での開催となった。その影響で自己ベスト達成率も低くなった。

・第4戦北見大会……世界選手権代表の尾西美咲選手 (積水化学) が1500mと3000mの両方に出場し、共に自己ベストを達成した。

6. 日韓交流事業

この事業も本年で11回目を迎えて中長距離種目の強化と交流を深めている。毎年春から夏ごろに日本で、秋から冬にかけて韓国で交互に6泊7日の合宿形式で開催している。

日本ではホクレン・ディスタンスチャレンジの網走大会と北見大会で開催した。

7. 今後に向けて

本シリーズも開始から10年の節目を超えて、次のステップに入った。実業団・学生の長距離選手が、年間計画の中で本シリーズを秋シーズンへのステップアップのための大会として位置づけ、その重要性が年々あがっていることが感じられる。

また、開催自治体にとっても、合宿の誘致などもあり本シリーズの開催が年々重要視されて来ている。

また、北海道の地元中・高校生のレベルアップにも貢献している。

第1回大会よりご協賛を頂いているホクレン、参加賞のご提供を頂いているデサントの各社に厚く御礼申し上げます。

上記のことを鑑み、これからも継続して本シリーズを開催していけるように関係各位のご協力・ご支援をお願い致します。

第20回アジア陸上競技選手権大会報告

強化委員長 原田 康弘

はじめに

第20回アジア陸上競技選手権大会がインド・ブネーで7月3日から7日まで開催された。日本選手団は、出発前に1名が怪我で辞退し、男子25名、女子26名、役員19名の計70名で本大会に臨んだ。開催都市が急きょブネーになり、事前に大会に関しての情報が極めて少なかったために、不安のまま出発となった。

フライトの関係で29日に第一陣が出発し、翌日に第二陣が出発するスケジュールになった。インド入りしてからブネーまでの旅程は、ニューデリーで一泊して、国内線で2時間半というもので、2日かかりの移動であった。このような旅程であったために選手には若干移動疲れがみられたが比較的元気に現地入りした。

ブネーはデカン高原の一部にある都市で、インドでは夏場の避暑地として人気が高く、快適な気温であった。しかし、7月は雨季で雨が多い時期であったため、雨の日が多く、晴れていても突然スコールのような雨が降るなど、不安定な天候であった。

目標設定

本大会の代表選手選考は、今までの代表選考と比較してより明確に選考することができるように派遣設定記録を設定し、これを突破した選手を選考した。この記録は過去の大会の6位入賞記録を基準としていることから、6位入賞を確実に目指せる選手団で臨んだといえる。チームとしての目標を具体的に提示していなかったが、代表選手の戦力からみて全員の入賞および金メダル5個を含む総メダル数20個程度は獲得できるものと推測していた。

アジア選手権事前戦力分析

大会出発前に参加者のランキングリストを事前に入手することができたため、各国選手の今シーズンの記録と日本選手団のランキング順位を照らし合わせ戦力的な分析を行った。その結果、日本チームは今大会のランキング1位が、男子は、200m、400mH、3000mSC、女子は200m、10000m、100mH、400mH、七種競技の8種目（リレー種目は除く）であった。なお、男女長距離については、中東地域の選手のタイムが記載されておらず、正確な戦力分析ができなかった。女子七種競技では前回優勝しているWASSANA選手（タイ）が高い実力を持っているために優勝することは困難であろうと予想していたが、その他の種目については十分優勝が狙える種目でもあると言えた。また、前回の神戸大会では男女リレー4種目で優勝したために、リレー種目には大いに期待していた。

また、最大のライバルでもある中国は、男子ランキング1位が100m、110mH、棒高跳の3種目であったが、伝統的に強い跳躍種目に実力者が多く、これらの選手を相手にどこまで戦えるかに非常に興味があった。女子については、投擲種目を中心に実力者がそろっている。さらに、中国以外でもアジア各国においてかなり重点的に種目強化が行われていることが、ランキングからうかがえた。結論として、これらの戦力分析の結果から、厳しい戦いになることを覚悟して大会に臨んだ。

主な結果

今大会の日本選手団の成績は、金4・銀6・銅10の20個のメダルを獲得し、国別獲得順位が3位で、男女別にみても男子が4位、女子が2位であった。中国が金16・銀6・銅5と断トツのトップであり、中東地域の中長距離移籍選手の活躍でバーレーンが5個の金メダルを獲得し2位であった。

初日から最終日までの5日間、各種目に熱戦が繰り広げられたが中でも、初日に女子走幅跳決勝が行われ、岡山沙英子選手（広島JOC）と榊見咲智子選手（九電工）が出場し、あいにくの雨模様と風も不安定な厳しい条件の中、榊見選手が4回目に6m55を跳び、逆転してトップに立ち、そのまま優勝した。最後まで集中力を切らず

表 第20回アジア陸上競技選手権大会（2013／ブネー）役員・選手大会期間：2013年7月3日～7月7日 場所：ブネー（インド）

役員（19名）			
No.	役職	氏名	所属
1	団長	吉儀 宏	理事・競技運営委員長
2	監督	原田 康弘	理事・強化委員長
3	コーチ（男子短距離）	伊東 浩司	強化委員会男子短距離部長
4	コーチ（男子短距離）	土江 寛裕	強化委員会男子短距離副部長
5	コーチ（女子短距離）	瀧谷 賢司	強化委員会女子短距離部長
6	コーチ（女子短距離）	青戸 慎司	強化委員会女子短距離部委員
7	コーチ（ハードル）	谷川 聡	強化委員会ハードル部長
8	コーチ（投擲）	岡野 雄司	強化委員会投擲部委員
9	コーチ（跳躍）	吉田 孝久	強化委員会跳躍部長
10	コーチ（跳躍）	小林 史明	強化委員会跳躍部委員
11	コーチ（長距離）	酒井 勝亮	強化副委員長
12	コーチ（中距離）	平田 和光	強化委員会男子中長距離マラソン部委員
13	コーチ（混成）	本田 陽	強化委員会混成部長
14	コーチ（女子中長距離）	山田 里美	強化委員会女子中長距離マラソン部委員
15	ドクター	櫻庭 景植	医事委員会委員
16	トレーナー	村上 博之	医事委員会トレーナー部委員
17	トレーナー	田村佑実保	医事委員会トレーナー部部員
18	トレーナー	砂川 祐輝	医事委員会トレーナー部部員
19	総務・渉外	大嶋 康弘	事務局事業部課長

※リザルトは8月号126頁を参照。

ことなく勝負強さを感じた試合であった。2個目の金メダルは、女子100mHであった。決勝で紫村仁美選手（佐賀陸協）が、不正スタート発見装置のデータからフライングと判定され失格となってしまった。一方、これに伴う何回かのスタートのやり直しにも関わらず、木村文子選手（エディオン）は集中力を維持し、会心のレースで優勝した。また、男女400mHは、日本にとって期待できる種目で、笛木靖宏選手（チームアイマ）、久保倉里美選手（新潟アルビレックスRC）がモスクワ世界選手権代表で、ランキングも1位であり、その実力通りのレースで快勝し、男女ダブル優勝をすることができた。女子優勝の久保倉選手は、アジア選手権4連覇という偉業を達成できたことは、賞賛されるべきである。

期待の男女リレー種目は、残念ではあるが優勝することができなかった。男子4×100mリレーは実力とも十分優勝が期待できるメンバーであったが、塚原直貴選手（富士通）の怪我があり、急きょオーダーを変えて臨んだ。中国との一騎打ちと感じていたが、昨年から実力が向上している香港チームが素晴らしいバトンパスと安定した走力で逃げ切って優勝した。日本チームはベストメンバーで臨んだわけではなく、男子4×400mリレー、女子4×100mリレー、4×400mリレーも敗れはしたが、ベストメンバーであれば十分優勝する力があると感じた。

他の種目においても日本チームが善戦した。特に、女子10000m決勝で、3位に入った萩原歩美選手（ユニク

ロ）が、前半から終始トップでレースを積極的に引っ張ったことが、各国の役員の方々より温かい拍手が送られた。また、女子やり投でも宮下梨沙選手（大体大TC）が4投目、5投目に記録を伸ばし、55m30を投げ3位に入った。1投1投、勝負している気迫を感じた。一方で、今回非常に期待していた男女200mでは、モスクワ世界選手権代表の高瀬慧選手（富士通）、小林雄一選手（NTN）、福島千里選手（北海道ハイテクAC）が出場し、ランキング、実力とも優勝が狙える種目であっただけに、非常に残念である。アジアで勝って世界選手権への弾みにして欲しかった。

今回のアジア選手権を踏まえて、来年のアジア大会に向けて、日本チームとして勝負できる種目が見えてきた。8月のモスクワ世界選手権でのアジア各国の情報、9月に開催される中国での大運動会などの結果を参考にして、早急にあジアでの戦力分析を行い準備していきたい。**最後に**

チーム全体としては、各選手がこのような環境状況の中で良く頑張ったと感じている。特に女子については全員が入賞し、男子についても、若干、入賞を逃した選手もいるが、ほとんどが入賞した。来年のアジア大会の戦力分析の資料にもなる大会でもあった。個人的にはナショナルチームの監督として初めての海外試合であったが、吉儀宏団長をはじめ役員の方々にご多大なるご協力を頂き感謝申し上げます。

男子 (26名)			
No.	種目	氏名	所属
1	100m/4×100mリレー	塚原 直貴	富士通
2	100m/4×100mリレー	川面 聡大	ミズノ
7	200m/4×100mリレー	小林 雄一	NTN
3	200m/4×100mリレー	高瀬 慧	富士通
4	400m/4×400mリレー	金丸 祐三	大塚製薬
5	400m/4×400mリレー	渡邊 和也	チームミズノアスレティック
6	4×100mリレー	大瀬戸一馬	法政大学
8	4×100mリレー/4×400mリレー	石塚 祐輔	ミズノ
9	4×400mリレー	廣瀬 英行	富士通
10	800m	横田 真人	富士通
11	800m	口野 武史	富士通
12	1500m	秋本 優紀	山陽特殊製鋼
13	5000m	北村 聡	日清食品グループ
14	3000mSC	山下 毅	NTN
15	3000mSC	武田 渡	スズキ浜松AC
16	110mH	矢澤 航	法政大学
17	400mH/4×400mリレー	笛木 靖宏	チームアイマ
18	400mH/4×400mリレー	今関 雄太	チームアイマ
19	走高跳	高張 広海	日LICT
20	走高跳	衛藤 昂	筑波大学
21	棒高跳	田中 儀	関西学院大学
22	走幅跳	下野伸一郎	九電工
23	ハンマー投	野口 裕史	群馬総合ガードシステム
24	やり投	高力 裕也	鳥取AS
25	やり投	荒井 謙	七十七銀行
26	十種競技	中村 明彦	スズキ浜松AC

女子 (26名)			
No.	種目	氏名	所属
1	100m/200m/4×100mリレー	福島 千里	北海道ハイテクAC
2	100m/200m/4×100mリレー/4×400mリレー	渡辺 真弓	東邦銀行
3	4×100mリレー	北風 沙織	北海道ハイテクAC
4	4×100mリレー	藤森 安奈	青山学院大学
5	4×400mリレー	青木沙弥佳	東邦銀行
6	4×400mリレー	千葉 麻美	東邦銀行
7	1500m/4×400mリレー	陣内 綾子	九電工
8	5000m	竹地 志帆	ヤマダ電機
9	10000m	萩原 歩美	ユニクロ
10	3000mSC	荒井 悦加	エディオン
11	3000mSC	堀江 美里	ノーリツ
12	100mH/4×100mリレー	紫村 仁美	佐賀陸協
13	100mH/4×100mリレー	木村 文子	エディオン
14	400mH/4×400mリレー	久保倉里美	新潟アルビレックスRC
15	400mH/4×400mリレー	吉良 愛美	中央大学
16	走高跳	福本 幸	甲南学園AC
17	棒高跳	竜田 夏苗	武庫川女子大学
18	棒高跳	仲田 愛	茨城茗友クラブ
19	走幅跳	岡山沙英子	広島JOC
20	走幅跳	樹見咲智子	九電工
21	砲丸投	白井裕紀子	滋賀陸協
22	ハンマー投	綾 真澄	丸善工業
23	やり投	久世 生宝	筑波大学
24	やり投	宮下 梨沙	大体大TC
25	七種競技	桐山 智衣	中京大学
26	七種競技	竹原 史恵	長谷川体育施設

第8回世界ユース陸上競技選手権大会報告

強化副委員長・強化育成部長 山崎一彦

第8回世界ユース陸上競技選手権大会 (2013/ドネツク) 役員・選手
大会期間：2013年7月10日～14日 場所：ドネツク (ウクライナ)

役員 (19名)				
No.	役職	氏名	所属	
1	団長	松澤 二一	理事	
2	監督	山崎 一彦	強化副委員長・強化育成部長	
3	ヘッドコーチ	清水 禎宏	強化育成副部長・U19統括	
4	総務	遠藤 俊典	強化育成部幹事	
5	コーチ (男女短距離・ハードル)	杉井 将彦	強化育成部委員・短距離・ハードル主任	
6	コーチ (男子短距離)	小野原英樹	強化育成部委員・短距離	
7	コーチ (中長距離)	森政 芳寿	強化育成部委員・中長距離	
8	コーチ (中長距離)	有川 哲哉	強化育成部委員・中長距離	
9	コーチ (跳躍)	小松 隆志	強化育成部委員・跳躍	
10	コーチ (跳躍)	田中 光	強化育成部委員・跳躍	
11	コーチ (投擲)	石井田茂夫	強化育成部委員・投擲主任	
12	コーチ (混成)	原田 隆司	滝川第二高校	
13	コーチ (競歩)	塚田美和子	強化育成部委員・競歩	
14	コーチ (投擲)	松井 江美	強化育成部委員・投擲	
15	ドクター	前澤 克彦	医事委員会委員	
16	トレーナー	松尾信之介	医事委員会トレーナー部委員	
17	トレーナー	宮澤 那緒	医事委員会トレーナー部部長	
18	総務・渉外	森 泰夫	事務局事業部長	
19	渉外	山田真理子	事務局事業部	
男子 (22名)				
No.	種目	氏名	所属	学年
1	100m/リレー	永田 駿斗	諫早高校 (長崎)	2
2	100m/リレー	大野 晃祥	東洋大附属牛久高校 (茨城)	2
3	200m/リレー	西端 志志	関西学院高校 (兵庫)	2
4	200m/リレー	矢野 和也	大垣商業高校 (岐阜)	3
5	400m/リレー	油井 快晴	浜松市立高校 (静岡)	3
6	400m/リレー	山木 伝説	九里学園高校 (山形)	3
7	3000m	廣末 卓	小林高校 (宮崎)	2
8	3000m	岡田 健	國學院大学久我山高校 (東京)	2
9	110mH	川村 直也	東海大附属仰星高校 (大阪)	2
10	400mH	古谷 拓夢	相洋高校 (神奈川)	2
11	400mH	大久保直哉	安城学園高校 (愛知)	3
12	2000SC	矢ノ倉 弘	山梨学院大学附属高校 (山梨)	3
13	10000m競歩	山西 利和	堀川高校 (京都)	3
14	10000m競歩	山下 優嘉	富山商業高校 (富山)	3
15	棒高跳	高木 亮	前橋育英高校 (群馬)	3
16	棒高跳	岡本 拓巳	横浜清風高校 (神奈川)	2
17	走幅跳	小田 大樹	下関商業高校 (山口)	3
18	走幅跳	松岡 修平	高田高校 (三重)	2
19	三段跳	待山 亮太	新栄高校 (神奈川)	3
20	やり投	石山 歩	花園高校 (京都)	2
21	やり投	森 秀	今治明德高校 (愛媛)	2
22	八種競技	潮崎 傑	滝川第二高校 (兵庫)	2
女子 (13名)				
No.	種目	氏名	所属	学年
1	100m/200m/リレー	中村 水月	小松商業高校 (石川)	3
2	100m/400m/リレー	青山 聖佳	松江商業高校 (島根)	2
3	400m/リレー	松本奈葉子	浜松市立高校 (静岡)	2
4	1500m	高橋 彩良	興譲館高校 (岡山)	2
5	1500m	出水田真紀	白鷗女子高校 (神奈川)	3
6	3000m	野添 佑莉	神村学園高校 (鹿児島)	3
7	3000m	林田みさき	姫路商業高校 (兵庫)	2
8	100mH/七種競技/リレー	ヘンプヒル恵	京都文教高校 (京都)	2
9	100mH/リレー	藤森 菜那	浜松市立高校 (静岡)	1
10	400mH/リレー	堀田 香穂	相洋高校 (神奈川)	2
11	5000m競歩	満田 桃子	伊豆中央高校 (静岡)	3
12	やり投	田中 来夢	倉敷中央高校 (岡山)	2
13	やり投	森 風紗	名城大学附属高校 (愛知)	2

※リザルトは本紙170頁を参照。

メダルは金1、銀1、銅2の計4つ、入賞計19 (メダル含) で、第2回大会の入賞数16を上回り、結果としては過去最高の成績を

取めた。また、参加者は35名で、リレーの入賞者を含めると24名が入賞に関与したことになる。

この成果の背景には大きく2つの理由が作用している。一つ目は、多くの所属高校が早く世界大会の舞台に送り出してくれたことである。事前の候補者調査では、ほとんどの所属高校より参加意向を示す返答が得られた。以前は、全国高校総体が控えている時期に、海外や、チームの元から離れるというリスクを回避する考えが一般的であったが、若い競技者により多くの国際舞台での経験をさせたいという指導者の質の向上が挙げられる。

二つ目は、現地入りしてからの強化育成部コーチングスタッフ、トレーナー、庶務の質の高さが際立った。ジュニア国際大会日本代表コーチ経験者が6名、初経験者が5名という布陣で臨んだが、経験者のリーグシップと初経験とは思えぬ采配^{さいはい}ぶりで、現地入りの選手の動きや予選の動きを見た感じでは決勝進出が困難であるのではないかという場面において、プラスαを選手に発揮させていたのが特に目立った。

(環境と生活)

ウクライナのドネツクは、ウクライナ第4の都市であり、工業都市として知られる。現国際陸連副会長でもあり、棒高跳のレジェンドとして世界記録を35回も塗り替えた「鳥人」、セルゲイ・ブカの出身地でもある。

日本からの渡航は、トルコ・イスタンブールで1泊し、合計約1日半かけて大会5日前に現地入りした。ヨーロッパから遠く比較的大所帯のチーム編成をしているアメリカ、オーストラリア、南アフリカなどは日本と同日に現地入りしていた。しかしながら、ユースレベルの大会という事で、大会組織委員会の動きは案の定鈍く、到着した日と次の日は臨機応変な行動となった。コーチングスタッフの落ち着いた滑らかな動きで、選手にストレスをかけないように行動して乗り越えた。

ホテルはアメリカフランチャイズホテルであったため、快適な環境であったことや、食事に関しても品数は少ないものの、日本人には比較的好うものであり、直接的なパフォーマンス低下の原因とはならなかった。ただし、ユース年齢ということもあり、選手はそれでもストレスを感じていたようで、持参のレトルト食品やチームでの補食を使用していた場面も見られた。ほとんどの選手が初の海外遠征であり、多少の使用は致し方ないが、多少のストレスをかけてでも、極力頼らないでオフィシャルホテルの食事を摂るように心がけたかった。

ホテルからサブトラックとメイン競技場への移動パスは、多少不確定で常時シャトル移動できる様な形ではなかったため、世界ジュニア選手権、世界選手権などよりも不確定なものであったが、ホテルからサブトラックまではバスで10分程度、トレーニング場は30分以内、メイン競技場は歩いて20分程度であり立地条件としては最高であった。

〈競技環境〉

メイン競技場、サブトラック、トレーニング場におけるトラックのサーフェイスは、ヨーロッパの良くあるチップ式の新しいものであった。特に新しいため柔らかく、チップが地面にまぶされており、微妙な横ブレの起こる材質であった。しかしながら、ヨーロッパでは主流のため、これを克服しておかなければならず、このようなトラックでも100mを9秒台で走る選手がいることを参加選手に伝え念を押しした。日本人が特に気になるサブトラックの状況は、4レーン400mで、投てき場は隣接し直線100m 8レーンのトラックが別に隣接してあったことから、最小限の合理的ウォームアップが出来る環境であったが、リレーの練習や400mハードルなどのカーブを使う種目に関しては、コーチや選手が気を使う場面もあった。

サブトラックからメイン競技場までの距離は約1.2kmあり、選手の導線は第1次コール終了後、バスにて誘導され、最終コールはメイン競技場外で行われ、トラック種目の選手はそこでスパイクを履いて入場する形となっていた。これは、事前のチームマニュアルには、最終コールの時間はトラックの競技開始40分前であったが、大会前日深夜に急遽変更となり、第1次コールのバス誘導時間が30分前となり、時間短縮の簡略化された形式となったが、庶務を始めとする関係スタッフが迅速な対応で、選手の緊張を極力軽減することが出来た。

〈我が国の戦力分析〉

個人のパフォーマンスとして参加者中18名がベスト記録、3名がシーズン記録、男女リレーは、ユース日本最高記録であった。もちろん、日本での主実践種目でないものもあるが、多くの選手たちが自己記録に近いパフォーマンスを出したことや、ラウンドごとに記録を上げていくプロセスを踏めたことは、極めて評価できる点であった。

記録という部分に焦点を当てると、男子400mの山木伝説選手(九里学園高校)は、今季48秒台であったが、46秒99の大幅自己新であった。東北地方であること、オリンピック育成競技者としての11月からの計4回からの合宿の状況をみて選出した。強化育成部のコーチ陣の目が功を奏した結果であり、育成の場面では経過観察が非常に重要であることがわかった。また、男子走幅跳の松岡修平選手(高田高校)と男子棒高跳の岡本拓巳選手(横浜清風高校)は、跳躍種目での自己記録入賞という特筆すべきものであった。外国人選手たちとのピットでの共有時間は、初心者レベルにおいてパフォーマンスを大幅に低下させる原因ともなる。両選手とも落ち着いて試技をしていたことが印象的であった。

落ち着きという点では、競歩および長距離種目で際立った。まず男子10000m競歩で金メダルを獲得した山西利和選手(堀川高校)は、前半から積極的且つ冷静にレースを進めていた。相手選手の疲労と動揺を見計らったのスパートも計算し尽くされた印象があり素晴らしかった。また、優勝インタビューに自信を持って英語で受け答えをしていた堂々とした態度は、アスリートを越えた国際人として絶賛に値するものであった。長距離種目では、特に入賞率が高く、どの選手も積極的にレースの流れに対応しようとしていたことや、8位入賞を確保することでなく、積極的に前へ出て勝負していたことが良かった。

勝負という点では、男女両メドレーリレー(100m+200m+300m+400m)がチームとして有終の美を飾った。男子リレーに関しては、短距離メンバーが故障で3人欠いたが、急遽走力のある走幅跳の小田大樹選手(下関商業高校)を起用した。6月に肺気胸を起こしていることから無理なく100m区間で走ってもらった。予選は全体のトップ通過で決勝進出し、堂々の銅メダルで

あった。女子メドレーリレーは、予選で先行していたジャマイカ、ナイジェリアが失格となり、実質的な順位を上げ、銅メダルを獲得した。しかしながら、大幅な日本最高記録を更新したことと、国際大会でのメダルは、どのカテゴリーの国際大会においても初メダルであったことは賞賛せずにはいられない。

〈ユース規格の検討〉

我が国の中学生および高校生の種目規格は、国際陸連の定めるユース、およびジュニアカテゴリーにおける種目規格と大幅に異なることが、国際陸連より指摘され改善の要求が来ているのが現状である。現在、日本のみが独自路線を走っており、種目のガラパゴス化を進行させている。主に異なる種目は、長距離種目の3000m、2000mSC、ハードル種目の高さ、投てき種目全般の重さである。特に選考の再問題となったのは、投てき種目の重さ設定が日本よりもユース規格が軽い場合に、参加標準記録に全く及んでいないが、普及育成の意味からも選出したいケースにおいても、この時点で国際大会の道が閉ざされてしまうのである。それらの種目は、シニア国際大会においても出場機会の少ない種目である。教育制度上からくる大会設定は、現状では急に変更することが得策とはならないのは理解できるが、国際規格に準拠することや、日本独自の育成方法をマッチングさせることは、今後必要不可欠となるであろう。

〈海外のユース育成状況〉

参加者数は、予定宿泊容量を超えるほど増加した。特に短距離種目を中心に、極端な増加傾向にあった。男子100mは12組あり、予選は2着取りといささか無理な設定もあった。今後は、標準記録の見直し等も検討されることが想定されるだろう。また、種目の重さ規定なども統一化されたことで、入賞記録等が上がるのが考えられる。

日本のメダルテーブルは12位、順位テーブル(1位から8位までを得点化)は7位であった。メダルテーブルでは、短距離種目で爆発的に力を発揮したジャマイカが金6つの1位、ケニア、エチオピア、オーストラリアと続いた。順位テーブルは、アメリカ、ドイツ、中国であった。上位国でドイツ、中国、オーストラリアなどは、タレント重視のプルアップ型での育成と海外派遣を行っている。一方アメリカ、日本はボトムアップ型の結果、記録重視型での派遣を行っている。特に隣国の中国の入賞率、メダル獲得率は極めて高く、男子100mではアジア初の金メダルを獲得した。我が国のユース世代は、2020年を契機とした主力年代であることから、世界の状況を踏まえ、今後の育成を再考する必要がある。

〈事前の選手状況〉

選手選考は、全国高校総体ブロック予選を待たない県予選までの結果で選考した。なるべく大会期日に近いところで選考したいが、エントリーや諸手続きの関係で全国高校総体県予選までの結果で選考する方法をとった。致し方ないところであるが、懸念していたブロック予選会で故障をしてしまった選出選手が4名いた。1名は欠場、1名は再発とユースカテゴリーにはふさわしくない結果であった。今後は、参加者が全員出場すること、故障をしないことを最重要にすることが、参加コーチの方からも意見としてあがっていることから、選考方法に関して予防策を検討していきたい。

〈最後に〉

最後に、団長の松澤二一理事をはじめとするスタッフのまとまりのおかげで好成績をあげることが出来たことに感謝したい。しかし、成果とは必ずしも好成績をあげることではなく、選手や指導者が大会期間中、何をして、何に気づいたかが今後の育成につながるだろう。

日本陸上競技連盟主催・市民ランナーのためのランニングクリニック 長野マラソン「レース直前対策講座とランニング相談会」報告

普及育成委員会ランニング普及部長 前河洋一

桜の開花が例年よりもかなり早く、春先にも気温の高いが続いたため、レースの準備においても当初は「暑さ対策」を心配していた。ところが直前になって、日本列島が急激な冷え込みに見舞われ、真冬に逆戻り。一転して「寒さ対策」に追われ、ランニングクリニックの講師陣も頻繁に天気予報を確認していた。加えて、直前に起きたボストンマラソンでの爆破事件の影響により、これまではない緊張感を余儀なくされた中で第15回の長野マラソンを迎えた。レースは、季節外れの積雪（気温0℃）の中でスタートし、男子は川内優輝選手によって大会史上初めて、日本選手の優勝が達成された。

本連盟が主催するランニングクリニックは、これまでの流れを引き継いで、レース前日に受け付け、会場のビッグハットで開催した。当日に受付をして参加することも可能であるが、事前の参加申込も240名に達していた。

内容は、元オリンピックマラソン代表の浅井えり子・川嶋伸次両氏によるトークショー形式のレース対策とアドバイス（45分間）、テーマ別のランニング相談会（60分）の二本立てである。それぞれを午前と午後に分けて2回ずつ実施した。

出入りが自由なため、正確な参加人数は把握できなかったが、トークショーについては準備していた座席では全く足りず、半数近くが立ち見の状態でも熱心に聞き入っていた。悪天候と寒さにもかかわらず、過去の参加者数を大幅に上回る大盛況ぶりであった。

トークショーではコースの説明や攻略法、レース前日の過ごし方や食事の摂り方、レース当日の行動予定とウェアの選択やペース配分について、選手・指導者の両方の立場からわかりやすく、ユーモアを交えてコメントしていただいた。

相談会のテーマと講師は以下の通りで、それぞれ30人ずつの定員に対して、それを上回る参加人数のテーマもあった。最初に各講師がテーマに関する基本理論や実践について解説を行った後、質疑応答の時間を設けた。60分の中で2つのテーマに参加できるように、30分で参加者を入れ替えて同じ内容を2回実施した（それを午前と午後なので、実質4回）。

- ①マラソンの調整法とレース対策（浅井えり子）
- ②ランニングフォームのアドバイス（前河洋一）
- ③中級レベルのトレーニング（市河麻由美）
- ④上級レベルのトレーニング（川嶋伸次）
- ⑤健康管理と内科的トラブルの対処法（岡野裕）
- ⑥ランニング障害の予防と対処法（小嵐正治）
- ⑦ランナーのための食事と栄養（長坂聡子）

長野マラソンは制限時間が「5時間」で、他の大会よりは厳しい条件であるために参加者の意識もそれなりに高く、制限時間内での完走を目指すランナーよりも記録にこだわりを持つランナーが多いようである。

雪と寒さによる厳しいレースコンディションであったが、他のレースに劣らない出走率（91.6%）からはエントリーしたランナーのこのレースにかける意気込みが感じられ、完走率も悪コンディションにかかわらず85.8%であった。レース後には「トークショーのアドバイスが大変役立った」、「相談会のアドバイスのおかげで安心して走れた、上手く走れた」と言ったコメントが寄せられ、参加ランナーにとっては非常に有意義なランニングクリニックであったことがうかがえる。

事前準備や当日の受付など、あらゆる面でご協力いただきました長野県陸上競技協会の先生方と関係各位に改めて感謝申し上げます。



トークショー形式のレース対策とアドバイス



テーマ別ランニング相談会

2013年度U-16陸上競技指導者中央研修会 要項

普及育成委員会

主 旨：近年、全国の中学校では陸上競技部の減少・陸上競技指導者不足が叫ばれている。そこで陸上競技初心者を目指す指導者の育成、陸上競技の底辺の拡大を目指し、陸上競技の基礎的な理論や日常での練習方法などの研修会を実施する。

主 催：日本陸上競技連盟（主管：普及育成委員会）

目 的：中学校陸上競技指導者の指導力の養成

期 日：2013年11月4日（月・祝） 9時00分～16時00分（予定）

場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター陸上競技場（東京都北区）

対 象：中学生陸上競技指導者

種 目：①ハードル ②走高跳 ③砲丸投

内 容：陸上競技の基本的な理論・ルール、基本的な指導方法など

日 程：09：00～09：30 開講式

（予 定）09：30～10：30 理論講習

10：45～11：45 講習 ハードル

12：00～13：00 講習 走高跳

13：00～13：15 質疑応答

13：15～14：15 昼食

14：15～15：15 講習 砲丸投

15：15～15：45 質疑応答

15：45～16：00 閉講式

参加費：3,000円（テキスト・昼食代含む）

指導講師：日本陸連普及育成委員会（国際陸連認定講師、JAAF コーチ（日体協公認コーチ））

定 員：30名（先着に受付）

申し込み：日本陸上競技連盟webサイトよりお申し込みください（<http://www.jaaf.or.jp/athleticclub/fukyu.html>）

問 合 先：日本陸上競技連盟事務局 西・三宅

（TEL：03-5321-6580、FAX：03-5321-6591、E-mail：nishi@jaaf.or.jp、miyake@jaaf.or.jp）



昨年の様様

科学委員会活動報告(日本グランプリシリーズ、日本選手権など)

科学委員長 杉田正明

1. はじめに

科学委員会の本年度の具体的な取り組みとしては、強化委員会と密接に連携し、モスクワ世界陸上に向けたブロック毎での競技会データのフィードバック、JISS等を活用した研修合宿での情報提供やデータフィードバック、強化合宿におけるサポート活動(バイオメカニクス、コンディショニング)などを行っている。科学委員会内の種目担当者を中心に、個別的、実践的なデータ収集と即時的なフィードバックに重点を置いた活動を実施してきている。今後も様々な活動を推進していきたいと考えている。

2. 種目別担当者

科学委員会では、各種目担当責任者を配置し、サポート活動などを行っている。種目担当責任者と強化委員会内の科学スタッフや各部長との連携を密にしながら、競技会や体力測定で得られるデータフィードバックや実際のトレーニング方法の提案やコンディションチェックの実施、種々のデータのデータベース化等についての活

動を推進していきたいと考えている。

【各種目担当責任者】短距離：広川龍太郎(東海大学)、松尾彰文(国立スポーツ科学センター)、ハードル：森丘保典(日本体育協会)、中・長距離・マラソン：榎本靖士(筑波大学)、杉田正明(三重大学)、競歩：三浦康二(成蹊大学)、跳躍：小山宏之(京都教育大学)、投てき：田内健二(中京大学)、混成：松林武生(国立スポーツ科学センター)、U23、U19：持田 尚(横浜市体育協会)

3. 競技会におけるパフォーマンスデータの収集(7月現在)

現在まで、下記の競技会において、データの収集、分析を実施した。

- 1) 日本選手権50km競歩(輪島) 4月21日 競歩
- 2) 兵庫リレーカーニバル(神戸) 4月20日、21日 跳躍
- 3) 日本選抜陸上和歌山(和歌山) 4月27、28日 混成

表1 織田記念陸上 男子100m決勝レース分析結果

氏名	記録(s)	風(m/s)	最高スピード		スピード 通減率(%)	総歩数 steps	通過タイム										
			スピード (m/s)	出現区間 (m)			ラップ										
桐生祥秀	10.03	2.7	11.65	40-50	8.6	47.4	区間スピード										
							通過記録(秒)	1.90	2.92	3.84	4.73	5.58	6.45	7.31	8.19	9.10	10.03
							区間記録(秒)	1.90	1.02	0.92	0.89	0.85	0.87	0.86	0.88	0.91	0.93
							区間速度(m/秒)	5.28	9.76	10.88	11.34	11.65	11.61	11.60	11.35	11.02	10.65
山縣亮太	10.04	2.7	11.57	50-60	7.0	47.6	区間スピード										
							通過記録(秒)	1.88	2.91	3.84	4.73	5.60	6.46	7.33	8.21	9.12	10.04
							区間記録(秒)	1.88	1.03	0.93	0.89	0.87	0.86	0.87	0.88	0.91	0.92
							区間速度(m/秒)	5.33	9.72	10.82	11.21	11.53	11.57	11.51	11.29	11.08	10.76

表2 日本選手権男子200m決勝レース分析結果

順位	選手名	記録	区間(m)	0-20	20-55	55-80	80-100	100-120	120-150	150-180	180-200
1	飯塚翔太	20.31	通過記録(秒)	3.05	6.36	8.64	10.50	12.52	15.18	18.32	20.31
			区間記録(秒)	3.05	3.31	2.27	1.87	2.02	2.66	3.15	1.99
			区間速度(m/秒)	6.55	10.57	11.00	10.72	10.65	10.51	10.03	9.57
2	小林雄一	20.46	通過記録(秒)	3.02	6.38	8.68	10.55	12.58	15.26	18.43	20.46
			区間記録(秒)	3.02	3.37	2.30	1.87	2.03	2.68	3.17	2.03
			区間速度(m/秒)	6.63	10.40	10.87	10.70	10.60	10.43	9.95	9.35
3	高瀬 慧	20.48	通過記録(秒)	3.09	6.41	8.73	10.61	12.63	15.32	18.50	20.48
			区間記録(秒)	3.09	3.32	2.31	1.88	2.03	2.69	3.17	1.98
			区間速度(m/秒)	6.47	10.53	10.81	10.63	10.62	10.38	9.95	9.57
4	藤光謙司	20.48	通過記録(秒)	3.07	6.38	8.66	10.53	12.56	15.24	18.45	20.48
			区間記録(秒)	3.07	3.31	2.28	1.87	2.02	2.69	3.21	2.03
			区間速度(m/秒)	6.51	10.58	10.95	10.68	10.63	10.39	9.85	9.35
5	高平慎士	20.52	通過記録(秒)	3.06	6.39	8.71	10.61	12.64	15.32	18.49	20.52
			区間記録(秒)	3.06	3.33	2.33	1.90	2.04	2.68	3.17	2.03
			区間速度(m/秒)	6.54	10.51	10.75	10.55	10.56	10.43	9.95	9.37

- 4) 織田記念 (広島) 4月28、29日
短距離、ハードル、中距離、跳躍、投擲
- 5) 静岡国際 (袋井)
5月3日 短距離、ハードル、中距離、跳躍、投擲
- 6) 水戸招待 (茨城) 5月4日 ハードル、跳躍
- 7) セイコーゴールデングラプリ東京
5月5日 全種目
- 8) 日本選手権混成 (長野) 6月1～2日 混成
- 9) 日本選手権 (東京) 6月8～10日 全種目

競技会終了後、各種目担当の強化委員と連携して、選手へのフィードバックを行っている。上記の競技会のいくつかの結果について紹介したい。

織田記念陸上では、好天に恵まれ短距離で好記録が誕生した。100m レース決勝における桐生選手と山縣選手の分析結果を表1に示した。追い風参考記録となったレースであったが、素晴らしい記録が生まれた。桐生選手(10秒03)の最高スピードは、11.65m/秒(40～50m区間)、山縣選手は11.57m/秒(50～60m区間)を示した。図1には、1988年ソウルオリンピックから2013年織田記念までのデータ(●)と2013年織田記念陸上の桐生選手(●)と山縣選手(○)のデータを加えた100mレース中の最高スピードとタイムとの関係を示した。レース中の最高スピードと記録とは図に見られるとおり非常に密接な関係にあり、記録は最高スピードに比例していることがわかる。レース中の後半のスピードの減速率は、桐生選手(8.6%)の方が山縣選手(7.0%)よりも大きい。最高スピードがより高ければ、それに相当する記録が得られることを意味している。すなわち、100mレース中の最高スピードが記録の決定要因として最も重要であるといえることができる。

日本選手権では、男子200m(風速+0.9m/s)で世界陸上A標準の突破者が上位を占める結果となった。上位5名の通過タイム等の分析結果を表2、図2に示した。20m通過は小林選手(2位)がトップで通過(3秒02)

したが、20m以降は、飯塚選手がゴールまで先頭を譲ることなく20秒31でゴールしたと同時に、飯塚選手はその後のどの区間スピードも高い値を示していることがわかる。最高スピードは全員55～80m区間で出現しており、飯塚選手の11.00m/秒が最も高い値を示し、次いで藤光選手(4位)の10.95m/秒であった。ゴール直前20mのスピードは高瀬選手が最も高い値(9.57m/秒)を示し3位となった。これらの結果は、選手個々の特徴をよく示しているといえる。

こうした競技会におけるパフォーマンス分析のデータは、即時あるいは数日以内にフィードバックされ、選手やコーチの感覚がホットなうちに客観的データとの突き合わせができるようになってきている。上記の競技会でのパフォーマンスデータの収集以外での活動として、モスクワ世界陸上に向けた競歩や女子マラソンの合宿に帯同しての技術的な支援やコンディショニングサポート(酸素飽和度、脈拍数、尿検査、尿比重、唾液アミラーゼなどの計測)が6～7月にかけて行われている。

本委員会の活動成果の一部は報告レポートにまとめ、陸上競技研究紀要に毎年掲載している。さらに、バイオメカニクス研究活動報告書(世界陸上およびインターハイ)についても日本陸連のホームページに陸上競技研究紀要とともにアップされている。ぜひ、<http://www.jaaf.or.jp/t-f/index.html>を参照いただきたい。

4. 最後に

モスクワ世界陸上さらにはリオデジャネイロオリンピックに向けた強化現場における本委員会の活動に対するニーズも高まり、具体的な要望も新たに出されている。今後もそれらの要望に応えるべくサポート内容や組織的な取り組みを充実させていきたいと考えている。最後に、科学委員会の活動に多大なご協力をいただいた関係の委員会、都道府県陸協、高体連、中体連などの関係各位に深く感謝申し上げます。引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

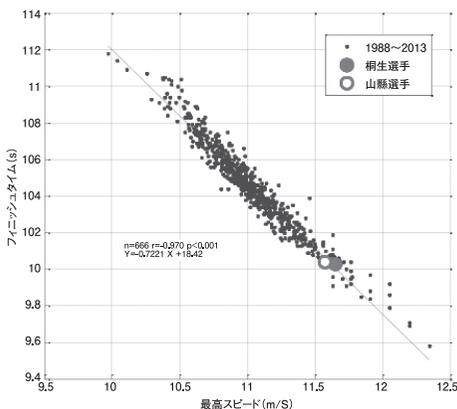


図1 最高スピードと記録(フィニッシュタイム)との関係(668例の結果から)

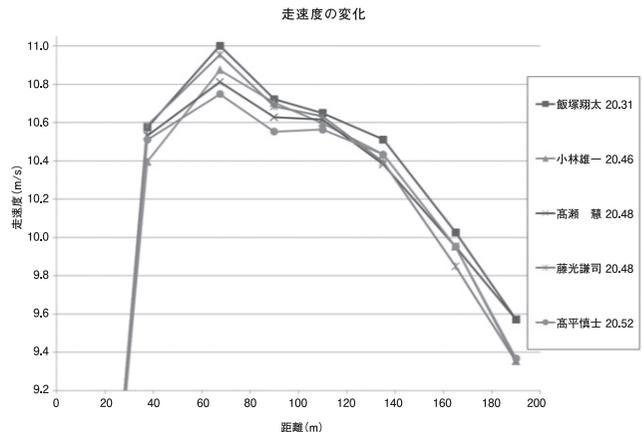


図2 日本選手権男子200m決勝レース分析結果

2013年度医事委員会総会と全国医務部長会議

理事・医事委員長 山澤文裕

2013年度医事委員会総会と全国医務部長会議をそれぞれ6月1日、2日に味の素ナショナルトレーニングセンター会議室にて開催した。委員会総会では、個々の経験を委員会全体として蓄積できるように多くの委員が発表し、意見交換を活発に行った。全国医務部長会議は2009年より開始し、5回目を迎えた。全国の陸協における医事組織の設置、医務レベルの向上を目的とし、陸連医事委員からの報告と最新情報の伝達、および陸協医事組織それぞれが抱える問題点について討議した。会議直前に実施したアンケート調査で、47陸協のうち39陸協に医事組織があり、医師が部長を務めているのは32陸協であった。「すべての陸協に、審判部が存在するのと同じ様に医事部も存在する」状態に近づいてきた。全陸協に医事組織が設置されるよう、引き続き関係者に働きかけていく。

6月1日 医事委員会総会

医事委員会のミッションである「トップアスリートのサポート」「陸上競技愛好者を含む国民の健康増進への寄与」について新任委員を交えて確認した。ロンドンオリンピック、世界ジュニア選手権、アジアジュニア選手権、世界ハーフマラソン、世界クロスカントリーに帯同した委員より報告があった。ロンドンオリンピックでは、オリンピックとしては陸上チームドクターの村内帯同は今回が初めてであった。事前メディカルチェックの実施、週間コンディションチェックが機能し、直前の棄権や参加中止選手はなかった。現地で自然気胸を発症した選手があり、出場の可否について議論があった。スリランカで行われたアジアジュニア選手権では急性胃腸炎、下痢が多発し、選手は十分な力を発揮できなかった。チームドクターが適切に対応したが、ドクターが帯同しない海外遠征のために急性胃腸炎の予防法、対応法についてまとめることとした。引き続き、心肺停止例調査、女子長距離ランナーの無月経と妊孕性に関する研究、長距離ランナーの疲労骨折に関する研究、日本体力医学会との共同プロジェクト「マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条」などについて報告があった。これらの研究については、陸連紀要や学術論文として発表される予定である。

2012年度にはドーピング検査を574検体実施した。2012年12月のホノルルマラソンで、日本人選手で初めてrEPOの違反例があり、ドーピング防止の教育啓発をさらに進める必要性を認めた。将来の陸上界を担う高校生の「発育とトレーニング調査」を高体連とともに実施し、一般競技者や陸上競技愛好者へ運動に起因する急性・慢性的の症状（食物アレルギー、湿疹、虫刺され、熱中症、オーバーユースなど）の啓発を陸連ウェブサイトから始める。その他、スポーツ栄養、トレーナーからの報告があった。また、日本学連医事委員会より、地方

学連との連携が十分でないことが報告され、駅伝競走での水分補給について議論が交わされた。

6月2日 全国医務部長会議

陸連では国内49競技会でドーピング検査を実施し、うち45競技会でNFRを派遣している。NFRは医事およびドーピング防止に関してレポートし、主催者にフィードバックしている。ドクター不在の競技会もいまだあり、改善が必要であることを医務部長に強調した。ロンドンオリンピックチームドクターであった櫻庭委員よりメディカルチェック、週間コンディションチェックなどメディカルサポート全般の報告があった。選手の1/3は何らかの障害・外傷を抱えていた、自然気胸が現地で発症した、など苦労話もあったが、全員がスタートに立つことができた。心肺停止例調査報告では、59,600人に一人の割合で心肺停止が発生したことが明らかとなった。日本体力医学会と共同提言した「マラソンに取り組む市民ランナーの安全10か条」について説明し、平素の健康管理の必要性、心肺停止の100%予防は不可能であるが、救命する事は可能であることを再確認した。

ドーピング防止情報として、2013年禁止表、TUE申請、居場所情報について詳細な説明を行った。日本版Global DROにより、禁止物質かどうかすぐに検索できるようになるため、その活用が望まれる。また、スポーツ栄養教育として、体重変化と練習・食事、コンディションとの関連を選手に確認させ、その変化を自覚させることの重要性が指摘された。また、違法・脱法薬物、発育とトレーニング調査、ストレッチなど、教育的な報告が行われた。

その後、2013年度に日本選手権と国体を開催する東京陸協（三橋先生）、山形陸協（丸山先生）、鹿児島陸協（大瀬先生）、2014年度に日本選手権を開催する福島陸協（村松先生）よりそれぞれの活動について報告があった。それぞれ医師の確保や医師のスケジュール調整に困難を感じているようであったが、医務部長が陸協事務局と調整を行うことで円滑にできると報告された。福島では医師不足で救急対応が厳しい状況であり、十分なサポートが行えるのか不安であると報告された。医師不在の救護体制として、鍼灸師など医療の心得があるものを派遣（岡山）、トレーナーが代行（愛知）、養護教員などが対応（山形）などの報告があった。大会救護以外では、メディカルチェック、ドーピングに関する（内服薬の）チェックなどもそれぞれが工夫を凝らして行っており、各地の医事・ドーピング防止のレベルアップが図られていることを感じた。

内容の濃い2日間であった。6月1日夜は医事委員と医務部長の懇親会で、会議前日より意思疎通ができていた。参加された医事委員、医務部長の皆さんへ深謝申し上げます。

2013数字で見る陸上競技Vol.1 都道府県公認競技会数

事務局

今号より、昨年に引き続き、シリーズ「数字で見る陸上競技」の連載を開始致します。Vol. 1では、2013年7月24日現在の都道府県陸上競技協会公認競技会数を掲載します。

NO	陸協名	公認競技会数
1	北海道	222
2	青森	54
3	岩手	38
4	宮城	53
5	秋田	71
6	山形	97
7	福島	86
8	茨城	73
9	栃木	40
10	群馬	108
11	埼玉	81
12	千葉	92
13	東京	153
14	神奈川	149
15	山梨	58
16	新潟	120
17	富山	46
18	石川	85
19	福井	46
20	長野	135
21	静岡	87
22	愛知	127
23	三重	83
24	岐阜	65
25	滋賀	45
26	京都	95
27	大阪	202
28	兵庫	287
29	奈良	67
30	和歌山	67
31	鳥取	62
32	島根	92
33	岡山	65
34	広島	188
35	山口	79
36	香川	64
37	徳島	62
38	愛媛	62
39	高知	60
40	福岡	138
41	佐賀	40
42	長崎	51
43	熊本	48
44	大分	63
45	宮崎	74
46	鹿児島	45
47	沖縄	75
合計		4200

2013数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数

事務局

Vol.2では、各都道府県陸上競技協会における2012年度公認審判員の登録人数を掲載します。

NO	陸協名	S級		A級		B級		合計		合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
1	北海道	218	12	282	26	725	173	1,225	211	1,436
2	青森	80	1	122	5	405	83	607	89	696
3	岩手	81	0	116	11	278	61	475	72	547
4	宮城	90	6	171	27	353	90	614	123	737
5	秋田	111	0	122	6	487	54	720	60	780
6	山形	96	1	138	13	424	103	658	117	775
7	福島	126	4	274	24	267	89	667	117	784
8	茨城	78	3	146	13	302	63	526	79	605
9	栃木	58	2	100	5	155	25	313	32	345
10	群馬	69	1	137	5	550	86	756	92	848
11	埼玉	74	0	322	46	336	68	732	114	846
12	千葉	93	2	256	21	771	144	1,120	167	1,287
13	東京	385	37	426	79	389	130	1,200	246	1,446
14	神奈川	238	1	304	16	986	207	1,528	224	1,752
15	山梨	116	6	149	9	406	105	671	120	791
16	新潟	79	1	183	3	820	139	1,082	143	1,225
17	富山	94	4	159	13	324	71	577	88	665
18	石川	85	3	135	7	258	69	478	79	557
19	福井	37	1	79	2	313	70	429	73	502
20	長野	121	0	131	7	486	96	738	103	841
21	静岡	199	4	240	31	515	126	954	161	1,115
22	愛知	145	4	218	12	760	185	1,123	201	1,324
23	岐阜	61	3	155	9	322	96	538	108	646
24	三重	36	0	88	7	299	92	423	99	522
25	滋賀	75	1	217	20	275	95	567	116	683
26	京都	117	3	190	16	680	247	987	266	1,253
27	大阪	159	5	331	58	708	230	1,198	293	1,491
28	兵庫	86	1	307	20	629	84	1,022	105	1,127
29	奈良	16	1	114	12	198	55	328	68	396
30	和歌山	26	1	88	9	316	100	430	110	540
31	鳥取	55	5	147	16	117	23	319	44	363
32	島根	81	2	147	24	488	81	716	107	823
33	岡山	55	4	231	38	225	87	511	129	640
34	広島	147	5	248	30	431	76	826	111	937
35	山口	110	2	179	19	389	77	678	98	776
36	徳島	25	2	68	5	114	41	207	48	255
37	香川	28	0	115	8	117	43	260	51	311
38	愛媛	59	2	143	9	314	102	516	113	629
39	高知	28	2	72	13	110	33	210	48	258
40	福岡	146	7	282	33	578	186	1,006	226	1,232
41	佐賀	73	1	134	23	165	56	372	80	452
42	長崎	52	3	112	7	373	63	537	73	610
43	熊本	85	2	202	29	252	110	539	141	680
44	大分	89	1	152	33	289	88	530	122	652
45	宮崎	37	2	85	11	326	87	448	100	548
46	鹿児島	69	3	320	53	203	91	592	147	739
47	沖縄	50	0	103	9	146	51	299	60	359
		4,438	151	8,440	892	18,374	4,531	31,252	5,574	36,826

大会観戦ガイド

若きアスリートの熱き戦いが続きます！

全国中学陸上は愛知が、全国小学生陸上は日産スタジアムが激戦の地！ また、全国高校陸上選抜を第1回大会として大阪で開催します！

平成25度全国中学校体育大会 第40回全日本中学校陸上競技選手権大会

- ▼期日：8月19日（月）～22日（木）
 - 開会式 8月19日（月） 14:30～15:20
 - 競技会 8月20日（火） 09:00～17:40
 - 8月21日（水） 09:00～17:30
 - 8月22日（木） 09:30～16:00
 - 閉会式 8月22日（木） 16:30～17:00
- ▼会場：愛知県・瑞穂公園陸上競技場
愛知県名古屋瑞穂区山下通5丁目1
- ▼アクセス：地下鉄名城線「瑞穂運動場東駅」下車、徒歩約10分。地下鉄桜通線「瑞穂運動場西駅」下車、徒歩約12分
- ▼種目：〈男子〉13種目 100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、110mH、4×100mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投（5.000kg）、四種競技（110mH、砲丸投（4.000kg）、走高跳、400m）〈女子〉10種目 100m、200m、800m、1500m、100mH、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投（2.721kg）、四種競技（100mH、走高跳、砲丸投（2.721kg）、200m）
- ▼放映予定：8月22日（木）14:20～16:00 NHK Eテレ
- ▼問い合わせ先：
（大会開催前）平成25年度全国中学校体育大会
第40回全日本中学校陸上競技選手権大会実行委員会事務局（名古屋市立富士中学校内）
TEL・FAX 052-971-8788
（大会開催中）8月19日（月）～22日（木）
事務局携帯 090-1786-7581
e-mail：zenchu2013@zenchu2013.jp

大会ホームページ <http://zenchu2013.jp/>

“日清食品カップ” 第29回全国小学生陸上競技交流大会

- ▼期日：8月24日（土）
 - 開会式 08:30～
 - 競技会 09:30～18:00
- ▼会場：神奈川県・日産スタジアム
神奈川県横浜市港北区小机町3300
- ▼アクセス：JR新横浜駅から徒歩15分、地下鉄新横浜駅から徒歩12分、JR小机駅から徒歩7分
- ▼種目：〈男子〉8種目 6年生100m、5年生100m、80mハードル、走幅跳、走高跳、ソフトボール投、4×100mリレー 〈女子〉8種目 6年生100m、5年生100m、80mハードル、走幅跳、走高跳、ソフトボール投、4×100mリレー
- ▼参加者：小学生5・6年生に該当する年齢で、各都道府県での選考会を経て選ばれた代表選手22名と指導者4名とする。
- ▼放映予定：9月1日（日）15:00～16:30 NHK Eテレ
- ▼問い合わせ先：日本陸上競技連盟
TEL03-5321-6580 FAX03-5321-6591
大会ホームページ <http://www.jaaf.or.jp/taikai/1087/>

第1回全国高等学校陸上競技選抜大会

- ▼期日：8月31日（土）～9月1日（日）
- ▼会場：大阪府・大阪市長居第二陸上競技場
大阪府大阪市東住吉区長居公園1-1
- ▼アクセス：地下鉄御堂筋線「長居駅」・JR阪和線「長居駅」または「鶴ヶ丘駅」下車
- ▼種目：〈男子〉2種目 10000m、八種競技 〈女子〉5種目 5000m、七種競技、棒高跳、三段跳、ハンマー投
- ▼問い合わせ先：日本陸上競技連盟
TEL03-5321-6580 FAX03-5321-6591
大会ホームページ <http://www.jaaf.or.jp/taikai/1167/>



昨年の全国小学生陸上

JAAF
TOYAMA

一般財団法人富山陸上競技協会

〒930-0887 富山市五福5区1942 アオイスポーツハウス内
TEL.076-442-1235 FAX.076-442-1235
http://homepage2.nifty.com/T-R-K/index.html

◆富山陸上競技協会の今後の主な競技日程をご案内致します。

- 8月23日(金) 富山県中学校記録会(五福)
 9月13日(金) 砺波地区中学校新人陸上競技大会(小矢部)
 9月14日(土) 高岡地区中学校新人陸上競技大会(城光寺)
 9月20日(金) 富山地区中学校新人陸上競技大会(五福)
 9月21日(土) 新川地区中学校新人陸上競技大会(桃山)
 9月21日(土) ~22(日) 第50回富山県高校新人陸上競技大会(県総合)
 9月28日(土) 男30 女26富山県中学校駅伝競走大会(県総合・クロカンコース)
 9月29日(日) 第13回富山県小学生たすきリレー大会(県総合・クロカンコース)
 10月5日(土) 北陸実業団記録会(桃山)
 10月12日(土) 富山県ジュニアオリンピック陸上競技大会(五福)
 10月26日(土) 第2回富山県高校記録会(五福)
 11月2日(土) 第3回富山県中長距離記録会(五福)
 11月3日(日) 男64 女26富山県高校駅伝大会(黒部名水)
 11月3日(日) 男37 女30富山県クラブ対抗駅伝大会(黒部名水)
 11月10日(日) 第31回 富山県駅伝大会(富山・高岡)
 11月17日(日) 男49 女26北信越高校駅伝大会(黒部名水)
 11月23日(土) 第4回富山県中長距離記録会(県総合)

JAAF
ISHIKAWA

一般財団法人石川陸上競技協会

〒920-1397 能美市菜丸町W50 物見山陸上競技場内2階
TEL.0761-51-3222 FAX.0761-51-3222
http://gold.jaic.org/jaic/member/ishikawa/index.htm

平成25年度・26年度の新役員が決定しました。

会 長に 永江庸悦
 副 会 長に 高澤基、宮地治
 理 事 長に 藤垣晴夫
 副理事長に 大岩為一、山本徹、松本彰の方々が一任され、正吉喜久夫が新しく就任しました。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

6月に北信越地区高校総体が開催され、全国高校総体の選手が決定しました。残念ながら出場人数は昨年より半減し、厳しい状況で終わりましたが、その中でも、女子100m、200m、400mで金沢二水高校の神保祐希選手が好記録で2年連続の3冠を達成するすばらしい成績を達成しました。中学生も県中学生大会、通信大会が無事終了し、全国大会の選手が決定しました。中学生も高校生も全国大会での活躍を祈っております。

また、モスクワで開催される世界選手権に男子20km競歩に出場します本県出身の鈴木雄介選手の活躍も陸上関係者を含め県民全体で期待しておりますので頑張ってください。

世界ユース選手権に参加した小松商業高校の中村水月選手が地区予選で痛めた脚が完治しなかった状態で100mでは十分な力を発揮できませんでした。リレーで銅メダルの好成績をあげました。おめでとうございます。

(文責：理事長 藤垣晴夫)

JAAF
FUKUI

一般財団法人福井陸上競技協会

〒910-0017 福井市文京3-11-8
TEL.0776-25-0590 FAX.0776-25-0591
http://www4.fctv.ne.jp/~rikujyo/

6月の評議員会で木原靖之氏(敦賀高教)が新専務理事に承認され、新体制がスタートした。片岡前専務理事を受け継ぎ、平成30年の福井国体に向けて取り組みが始まった。新専務理事は、「福井国体に向けて強化を図りながら、それ以後の次世代につなげていく取り組みを行いたい」と熱く語った。皆様どうぞ宜しくお願いします。

まずは結果から。先の日本選手権。1000mで窪田忍選手(駒澤大学)が28分31秒50を出して7位に初入賞。女子では、100mHの熊谷史子選手(北海道ハイテクAC)が13秒58のタイムで7位入賞。次に、大分インターハイに駒を進めた有望選手を見てみたい。男子では、先日の大分大記録会で47秒台を出した400mの北川貴理選手(敦賀)、110mHの久保祐樹選手(北陸)、ハンマー投で北信越で大会新を出した林真暉人選手(敦賀) 回りか。女子では、800mの真柄碧選手(美方)、400mH松ヶ谷茜里選手(敦賀)、走幅跳の岩崎幸菜選手(敦賀)、七種競技の足立晴香選手(敦賀)らが元気か。次に中学生。全中大会で活躍しような選手を見てみたい。男子では100m、200mで県中記録を更新した堀田歩夢選手(春江中)、走幅跳の中澤峻也選手(明倫中)、砲丸投で県中記録を出した岩佐隆時選手(足羽一中) 回りか。女子3年生では、100mHの上田紗弥花選手(栗野中)、走幅跳の藤田和音選手(武生一中)、2年生では100mの中嶋唯選手(足羽中)、走高跳の荻輪好未選手(中央中) 回りか期待できそうか。

他にも力を秘めた選手がたくさんいます。元気な活躍を期待します。

JAAF
NAGANO

一般財団法人長野陸上競技協会

〒386-0151 上田市芳田1656-1 杉崎憲雄様方
TEL.0268-35-2132 FAX.0268-35-2132
http://nagano-rk.com/

平成24年2月16日に法人が設立され、一般財団法人として初めての1年間が経過しました。

6月に定時評議員会及び理事会を開催し、25・26年度の新役員体制、専門委員長などが審議され承認されました。

今年で長野市での開催が2回目となる第97回日本陸上競技選手権大会混成競技、第29回日本ジュニア陸上競技選手権大会混成競技を、6月1日～2日に長野市宮競技場で開催しました。

第14回世界陸上競技選手権大会代表選手選考競技会を兼ねており、14名の委員からなる実行委員会を組織して、この大会に向けて10回近く実行委員会を行い、96回大会の反省点を踏まえ、準備を進めてまいりました。

特に、好記録が出やすい環境にするため、バックストレートに100mの逆走路を設けました。

3月23日には日本陸連より本田陽混成部長と中京大学の選手をお迎えして、小中学生向けに普及イベントとして講習会及び競技会を開催し、多くの選手が参加し盛大に行うことができました。

8月10日開幕のモスクワ世界陸上の長距離日本代表選手として、本県佐久長聖高校出身の佐藤悠基選手(日清食品グループ)、大迫傑選手(早稲田大学)及び競歩日本代表選手として中野実業高校出身の荒井広宙選手(自衛隊体育学校)の3人が選ばれました。

関係者一同大変喜んでおります。大会での活躍を大いに期待しております。

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸上競技連盟マラソンメディスンセミナー2013を開催します!◆◆

日本陸上競技連盟医事委員会では、安全なマラソン大会の運営に寄与することを目的に、さまざまな事態を想定したうえで、主催者側がどのような医療体制を構築すべきか、を中心としたマラソンメディスンセミナー2013を開催します。

日時：2013年9月15日(日)
13:00~17:00(予定)

会場：東京都北区 味の素ナショナルトレーニングセンター

対象者：日本陸上競技連盟公認コースで開催されるマラソン大会の医事責任者と事務局
および、それ以外のマラソン大会、ロードレース大会の医事責任者と事務局

※詳細につきましては、本連盟ホームページ<http://www.jaaf.or.jp/medical/index.html>にて。

◆◆陸上競技指導教本を好評発売中です!◆◆



普及育成委員会、強化委員会を中心に制作してまいりました陸上競技指導教本(初級編、上級編)が4月に大修館書店から出版され、既刊のキッズ指導者向けの教本と合わせて、3冊シリーズが揃いました。

「陸上競技指導教本アンダー12 楽しいキッズの陸上競技(1890円)」

「陸上競技指導教本アンダー16・19 [初級編] 基礎から身につく陸上競技(1995円)」

「陸上競技指導教本アンダー16・19 [上級編] レベルアップの陸上競技(1995円)」

で好評発売中です。

今後、日本陸上競技連盟が主催する指導者講習でもテキストとして使用していきます。是非ご購入いただいて、日頃の指導の参考にしてください。

【お詫びと訂正】

8月号212ページに記載されている荻田大樹選手の出身高校

「市立観音寺第一高校」とあるのは「観音寺第一高校」の誤りです。お詫びし、訂正致します。

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩(陸連会長)
三宅 勝次(陸連副会長)
友永 義治(陸連副会長)
尾縣 貢(陸連専務理事)
原田 康弘(陸連強化委員長)
風間 明(陸連事務局長)
高橋 克実(陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

森 泰夫
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
本田香代子
森谷 真咲

陸連時報編集室

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

公益財団法人日本陸上競技連盟 内

TEL 03-5321-6580

FAX 03-5321-6591

ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/>

公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>